

社会保険委員会

委員長：金子 剛

担当理事：内田 満

委員：相原 正記、井砂 司、井上要二郎、宇田川晃一、大久保文雄、大城 貴史、大西 清、荻野 浩希、小室 裕造、関口 順輔、関堂 充、館 正弘、田中 嘉雄、鳥山 和宏、難波祐三郎、二ノ宮邦稔、前川 二郎、村上 正洋、村上 隆一、矢野 健二、吉田 哲憲

開催年月日：①平成 23 年 4 月 7 日(全体)

②平成 23 年 8 月 19 日(拡大在京)

③平成 23 年 10 月 6 日(全体)

その他 適宜 e-mail 委員会

活動の概要：1. 平成 24 年度診療報酬改定について

①平成 24 年度改正要望項目

外保連が作成する社会保険診療報酬に関する改正要望書に、以下の医療技術（再）評価提案書を掲載し、外保連とともに要望を行った。

[技術新設]

- i) 骨内異物(挿入物)除去術 頭蓋・顔面(複数切開を要するもの)
- ii) 顔面多発骨折変形治癒矯正術
- iii) 遊離穿通枝皮弁術(顕微鏡下血管柄付きのもの)
- iv) ICGによる赤外線蛍光リンパ管造影
- v) 陰茎再建術(尿道再建を伴うもの)
- vi) 乳房縮小術(性別適合手術におけるもの)
- vii) 自毛植毛術
- viii) 脂肪吸引術(再建目的に限る)

[技術新設]

- i) 併施手術の加算点数見直し(対象手術：K016・K017・K019・K020・K021・K033) 加算点数の見直し(100/100 加算)
- ii) 分層植皮術(25cm² 未満、25cm² 以上 100cm² 未満、100cm² 以上 200cm² 未満、200cm² 以上) 点数の見直し(増点)
- iii) 画像等手術支援加算 2. 実物大臓器立体モデルによるもの 点数の見直し(増点)
- iv) 皮膚レーザー照射療法 2.Q スイッチ付レーザー照射療法 算定可能治療回数の見直し(「2回を限度」の廃止)
- v) 画像等手術支援加算 1. ナビゲーションによるもの 対象手術の拡大(K334・K334-2・K427・K427-2・K433・K434・K443)

[材料新規・改正(点数の新設)]

- i) スキンステイプラー
- ii) 顕微鏡下血管吻合用縫合糸
- iii) 熱可逆性樹脂

②外保連からの要望項目のランク付け

厚労省から外保連に対して、要望書の項目にランク付けをするよう依頼があり、各学会の要望項目の25%をA評価とすることになった。

形成外科学会としては、新設2件（骨内異物除去（複数切開）、遊離穿通枝皮弁（顕微鏡下血管柄付き））、改正1件（併施手術の加算見直し）、材料1件（顕微鏡下血管吻合用縫合糸）をA評価項目とした。

③厚労省ヒアリングへの対応

平成23年9月12日17時より、品川イーストワンタワー会議室にて行われた。

参加者は内田担当理事、委員長、相原、宇田川、荻野の5名。説明項目は2項目のみとされたため、骨内異物除去（複数切開）と複数手術に係わる特例の見直しとし、特にK016動脈（皮）弁術、K017遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付き）、K020自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付き）を重点的に要望した。

④改正結果について

2012年2月10日開催の第221回中医協総会において来年度の診療報酬改正の答申が公表された。外保連試案において技術度の高い技術の大幅な増点が認められ、外科系の医療技術を適性評価してゆくという方向性が示されたものである。また形成外科学会として強く要望していた併施手術の100%加算の適応範囲拡大が認められた。

2. 外科系学会保険委員会連合（外保連）関連

①外保連委員

手術委員会：関堂 充、二ノ宮邦稔

（手術委員会）コーディネーティングワーキンググループ：相原 正記

（手術委員会）医療材料・医療機器ワーキンググループ：金子 剛、前川 二郎

処置委員会：関口 順輔（委員長）、小室 裕造、荻野 浩希

（処置委員会）輸血ワーキンググループ：関口 順輔

検査委員会：二ノ宮邦稔、荻野 浩希

実務委員会：関堂 充

（実務委員会）要望順位づけ検討ワーキンググループ：金子 剛

②外保連試案

外保連試案2012（手術試案第8版、処置試案第5版、検査試案第5版を含む）が医学通信社より平成23年12月に刊行された。

③外保連の法人化

外保連の法人化がなされた。会費等には変化はない。

④新規術式の登録

形成外科関連はなし

3. 日本医師会疑義解釈委員会関連

①委員長が委員として参加している。形式上、疑義解釈委員会と保

険適応検討委員会に分割して開催することとなった。薬品、医療機器、検査などの保険適応に関する正式な決定機関となる。

平成 24 年 3 月 3 日（金）の委員会において、「エムラクリーム」について皮膚科学会と共同で、「保険適応可」として答申した。

②日本医師会薬理作用に基づく適応外使用の実態調査関連

2年に1回程度日本医師会が中心となり各学会から要望を集約している。今年度は、パルクス等の血管再建後の使用とインドシアニングリーンのリンパ管静脈吻合での使用が認められた。

4. 先進医療専門家会議、高度医療評価会議関連

委員長が委員として参加している。聖マリアンナ医大形成から申請のあった、「多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍治療」は 9 月 13 日開催の先進医療専門家会議にて承認された。

5. DPC 関連

厚労省保険局医療課による診断群分類見直し作業班会議が開催された。委員長がMDC16班班長（形成）として、班員として井砂委員、委員外で秋元正宇先生（日本医大北総医療センター）が参加した。MDC16班班会議が11月19日、班長会議が12月6日に開催された。主として外傷の診断群分類の精緻化、副傷病名、新規収載手術の検討を行った。

医療課より横断的検討のための意見が求められたため、以下の様に分担して検討した。

MDC 1 神 経

MDC 2 眼 : 大久保

MDC 3 耳 鼻 科 : 村上

MDC 7 筋 骨 : 二ノ宮

MDC 8 皮 膚 : 相原（班員）

MDC 9 乳 腺 : 矢野

MDC14 先天異常 : 宇田川

MDC16 外 傷 : 金子（班長）、井砂（班員）、
秋元（班員、社保委員外）

なお診断群分類見直し作業班は中医協の下部組織として通年活動する形態に改められるとのことである。

6. 日本小児期外科系関連学会協議会(JPASS)関連

委員長と社保委員外で鈴木啓之先生（千葉こども病院）の 2 名が参加。外保連を通じて要望している項目のうち小児に関する項目を抜粋して要望した。

7. 広報活動

①社会保険形成外科診療報酬早見表について

平成 24 年度改正版の監修作業中。4 月中に発行予定。

②第 54 回日本形成外科学会学術集会において社会保険委員会報告『形成外科領域における診療報酬の改定』を開催した。

日 時 : 平成 23 年 4 月 8 日 (木)

司 会：関口 順輔、内田 満

演 者：宇田川晃一、大西 清

③第 20 回基礎学術集会時にイブニングセミナーを開催した。

日 時：平成 23 年 10 月 6 日(木)17:30～18:00

司 会：金子 剛

演 者：宮田俊男氏(厚労省医政局研究開発課高度医療専門官)

演 題：「厚労省が主導する医療イノベーションについて」

④第 55 回日本形成外科学会学術集会において、教育講演を予定している。

日 時：平成 24 年 4 月 13 日(金)13:20 から 15:20

第一部：社会保険診療報酬支払基金について

演 者：新木一弘氏 社会保険診療報酬支払基金審議役(前厚労省
医政局研究開発課課長)

司 会：金子 剛

第二部：本年度の診療報酬改正について

演 者：大西 清、宇田川晃一

司 会：関口 順輔、内田 満担当理事

8. その他

①医療上必要性が高い未承認の医療材料・医療機器の申請

スミスアンドネフュー社の局所陰圧閉鎖装置(レナシス)を日本褥瘡学会が要望するにあたり、日本形成外科学会は関連学会となることを了承した。

②社保委員会に下記の部会を設置して、部会長(○)を中心に活動してゆくこととした。詳細および部会のメンバーについては今後検討する。

i) 審査・査定問題部会：○宇田川、大久保、村上、二ノ宮、関口

ii) 外 保 連 部 会：外保連委員および OB にて構成

iii) 先進・高度医療部会：○委員長、担当理事

iv) 広 報 部 会：○大西

v) 性別適合手術部会：○難波、委員長

vi) レーザー部会：○大城